

イーストスプリング・ジャパン中小型厳選バリュー株ファンド

2月9日における基準価額の変動について

受益者向け資料
2016年2月9日

2016年2月9日、当社が運用する「イーストスプリング・ジャパン中小型厳選バリュー株ファンド」の基準価額が前営業日比で5%を超える下落となりました。変動の主な要因等についてお伝えします。

ファンド名	2月9日 基準価額	2月8日 基準価額	前営業日比	前営業日比 騰落率
イーストスプリング・ジャパン中小型 厳選バリュー株ファンド	10,772円	11,392円	-620円	-5.44%

※基準価額は、信託報酬控除後の数値です。

(ご参考) 株価指数	2月9日	2月8日	騰落	騰落率
日経平均株価	16,085.44	17,004.30	-918.86	-5.40%
(ご参考) 為替レート	2月9日	2月8日	騰落	騰落率
米ドル	115.35円	117.02円	-1.67円	-1.43%

出所：株価指数はBloomberg L.P.のデータ、為替レートは一般社団法人投資信託協会が発表する為替レート。

基準価額下落の背景： グローバル景気の先行き懸念から、世界的に安全資産に逃避する動きが鮮明に

世界の株式市場は、中国株の急落や原油安などを受けて波乱の年明けとなりました。1月下旬には原油価格の反発や日銀によるマイナス金利導入の発表などから、市場はやや落ち着いた動きとなりましたが、2月に入ると再び原油価格が下落したため、リスク回避の動きが強まりました。9日の日経平均株価は、前日の欧米株式市場の下落の影響を受け、前営業日比-5.40%となりました。

また、リスク回避の動きは円高を進行させ、東京市場の米ドル・円レートは一時114円台と1年3カ月ぶりの円高となりました。このことから、輸出企業を中心に来期の業績が懸念され、日本の株式市場にとってマイナスに影響しました。

債券についても前日の欧州市場でリスク回避の動きが強まり、欧州金融機関やギリシャに対する信用不安が強まりました。9日の日本市場では長期金利が史上初のマイナスとなりました。

こうした状況を背景に、保有銘柄の株価下落により、当ファンドの騰落率は前営業日比-5.44%となりました。

今後の見通し： リスク回避の動きは継続する可能性 短期的な市場動向を注視するも、投資方針に変更なし

中国の景気の先行きに対する不透明感はいまだに強く、原油の過剰供給懸念も払拭されていません。当社では、短期的に世界的なリスク回避の動きが続く可能性があると考えています。

米労働省が2月5日に発表した1月の米雇用統計が強弱まちまちの内容となったことも、米国の早期利上げ懸念を後退させ、円買いの動きを加速させました。ただし、その他の米国の経済指標は堅調であり、2016年も米国は緩やかな経済成長が続くものと見ています。

日本においては、個別企業レベルでファンダメンタルズは改善を続けており、長期的な日本株の再評価を下支えしています。日銀短観では1-3月の設備投資計画や収益見通しなどが幅広く上方修正されました。2015年10-12月期においても、日本企業の利益成長はポジティブ・サプライズを生み出し続けています。また、労働市場においては、有効求人倍率や失業率が歴史的な水準まで改善し、賃金上昇の見通しを後押ししています。

今後も、ファンダメンタルズに関係なく株式が売り込まれる局面が想定されます。運用担当者は、そのような局面を、株価が企業本来の収益力から想定される適正水準から乖離することが多く、バリュエーションが割安と判断される優良企業の株式を組み入れる好機と考えています。

※当資料はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社が情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。※当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。

英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社とは関係がありません。